

スコッチウイスキー産地別(5) ローランド スムーズで都会的 ～新蒸留所が次々と稼働



スコットランドの最南部で、エジンバラやグラスゴーなどの大都会を擁しており、ライトで爽やかな香りのものが多い。イングランドと接しており、大資本が入りやすく、大型の蒸留設備が作られた。グレンウイスキーやブレンドウイスキー発祥の地でもある。衰退後、近年再興して新蒸留所から若いウイスキーが出回り始めている。

ローランドのウイスキー お好きなだけ
会費3000円 (おつまみ付き・飲み方は自由)

11月16日(金)、22(木)、23(祝)、24(土) 他の日も応相談
17:00 - 20:00 事前連絡要 於: Café & Bar 朝堂院

超定番



オーヘントツシャン蒸留所

1823年にアイルランド移民が設立したと伝承される。アイルランド式の3回蒸留を守っている唯一の蒸留所。スコットランド最大の都市、グラスゴー近郊にあり、都会的にライトでエレガント。

ダフトミル蒸留所

2005年に創業した新しい蒸留所。農家が自家醸造として始めた、営業方針として、樽やウイスキーボトルは販売しないことになってはいるが、発売のうさもあり。



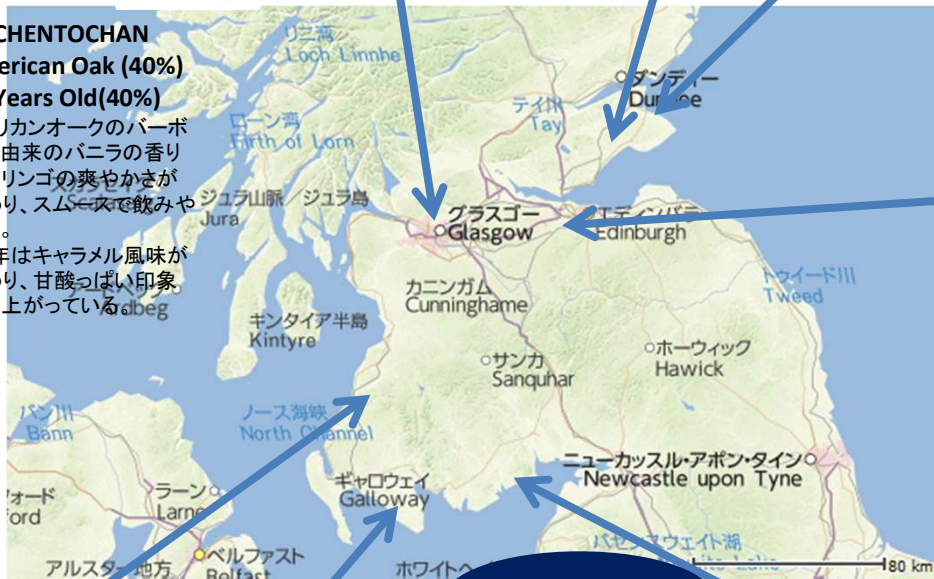
キングスパーズ蒸留所

近隣の有名なゴルフ場でキャリーをしていた男が奮起して2010年に創業し、2013年から稼働した新しい蒸留所。



AUCHENTOSHAN American Oak (40%) 12 Years Old(40%)

アメリカンオークのバーボン樽由来のバニラの香りに青リンゴの爽やかさが加わり、スムーズで飲みやすい。12年はキャラメル風味が加わり、甘酸っぱい印象に仕上がっている。



グレンキンチー蒸留所

1837年に創業されたエジンバラの近郊にある蒸留所。設立者は農地の所有者で、農地の中に設立した。1881年に蒸留所は改築され、現在に至っている。



GLENKINCHIE 12 (43%)

スコットランド最大の蒸留器で製造され、ライトでエレガント。オーク樽で12年間の熟成。潮の香りがやや辛口。レモンチーズケーキのまろやかな甘酸っぱ味。

アイルサベイ蒸留所

2007年 グレンフィディックのオーナーであるウィリアム・グラント(William Grant & Sons)によって、同社が所有するグレン蒸留所・ガーヴァンの敷地内に設立された。GRANT'Sなどのブレンドウイスキー用の原酒を供給するが2018年にはシングルモルトも発売した。

ブラッドノック蒸留所

1817年に創業された、スコットランドで最も南に位置する蒸留所。1993年に一旦閉鎖されたが、2000年に再開されたが、稼働するのは年間1~2カ月で生産量は極めて少ないレアな製品。

BLADNOCH SAMSARA (46.7%)

創業200年を記念してリリースされたデカンタ風の重厚なボトル入り。メープルやパイナップルの甘酸っぱさ。時間とともに香りが穏やかに増す。少し潮の香りを感じる。



200周年記念

アナンデール蒸留所

1830年に創業したが、ジョニーウォーカーに買収された後1924年に閉鎖した。2007年に再開し、2014年に最初の製品を蒸留した。

ANNANDELE Aged 3 Years FIRST FILL (61.4%)

その最初に蒸留した貴重な原酒がボトラーによってリリースされたレアな逸品。バーボン樽のカスクストレングス(原酒)が、度数が高いが香りもあり、味わいも深いがキワモノ。ややピーティーで潮っぽい。ソーダ割がおいしい。



First Fill